

第15回「芥川作曲賞」 齊木由美氏の作品「アントモフォニーIII」に決まる

「芥川作曲賞」の第15回受賞曲は、8月28日（日）午後3時から東京・サントリーホールでの演奏会による公開選考の結果、齊木由美氏作曲の「アントモフォニーIII」に決定しました。同氏には、賞状とあわせて賞金50万円が贈られました。

芥川作曲賞は、戦後のわが国音楽界の発展に多大の貢献をされた故 芥川也寸志氏の功績を記念して、サントリー音楽財団が日本作曲家協議会の支援を得て1990年4月に創設したものです。故人の深い音楽愛、明晰な音楽観と音楽の振興によせられた熱情を追慕して、わが国の新進作曲家のもっとも清新にして将来性に富む作品を対象に、演奏会形式により公開選考を行うという、作曲賞としてはわが国で初めてのユニークな試みとなっています。なお、この日、公開選考に先だって、第13回受賞者・山本裕之氏の受賞記念サントリー音楽財団委嘱作品「モノディ協同体」の初演が行われました。

▽第15回芥川作曲賞

齊木由美（さいき・ゆみ）

<贈賞理由>

簡素な無駄のないオーケストレーションで緊張感にあふれ、新しい音響に満ちた、完成度の高い作品を書いた。独自の新しい音楽的な時間構成を提示することに成功した。

<略歴>

1964年7月18日三重県生まれ。愛知県立芸術大学、パリ・エコールノルマル音楽院卒業。パリ国立高等音楽院作曲科首席卒業。第一位指名で一等賞を得る。作曲を、兼田敏、保科洋、平義久、ポール・メファノ各氏に師事。第9回名古屋文化振興賞作曲賞第1位、第62回日本音楽コンクール第2位、第8回・第13回芥川作曲賞ノミネート。96年帰国以降、同志社女子大学音楽学科、桐朋学園大学、愛知県立芸術大学で教育活動に従事しながら、「Just composed '99 in Yokohama 現代作曲家シリーズ」「しらかわ、紀尾井、いずみ3ホール共同企画」「読売日本交響楽団<若手日本人作曲家委嘱シリーズ>」「武生

国際音楽祭」などから委嘱を受け新作を発表している。主要作品は、Alter Ego、Ensemble courage、Ensemble 2e2m、Ensemble l' Itineraire、東京シンフォニエッタ、新日本フィル、東京シティフィル、京都市交響楽団などによって、これまでにカーン、ザールブリュッケン、ダルムシュタットなどのフェスティバルのほか、日本、フランス、ドイツ、ベルギー、アメリカ、メキシコの演奏会で発表されている。今年6月にはIRCAM研究員として講習会に参加した。

第15回芥川作曲賞 選考経過

1. 2005年3月21日(月・祝)午後1時より東京都港区、東京全日空ホテルにおいて第1次選考会を開催。2004年1月1日より2004年12月31日の間に国内外で初演された日本人作曲家の管弦楽作品を対象に選考し、芥川作曲賞にふさわしい清新にして豊かな将来性を秘めた以下4作品を「第15回芥川作曲賞」の候補に選定した。選考委員は猿谷紀郎、野平一郎、湯浅譲二の3氏。(50音順)

◆藤倉 大 作曲 <ヴァニッシング・ポイント>

初演：2004年10月5日ヘッシェ・ルンドフンク・ゼンデザール
(フランクフルト)
ドイツ国際作曲セミナー・コンサート

◆鷹羽 弘晃 作曲 <「アフエア」～ハープと室内オーケストラのための>

初演：2004年11月11日紀尾井ホール
篠崎史子ハープの個展IX～ハープ協奏曲の新たな地平

◆植田 彰 作曲 <フォーカル・ディスタンス II>

初演：2004年5月30日東京オペラシティコンサートホール
2004年度武満徹作曲賞本選演奏会

◆斉木 由美 作曲 <アントモフォニーIII>

初演：2004年6月12日サントリーホール
読売日本交響楽団第428回定期演奏会

(演奏順)

2. 2005年8月28日(日)、午後3時よりサントリーホールにおいて上記4曲を公開演奏(指揮=小松一彦、管弦楽=新日本フィルハーモニー交響楽団)。
演奏終了後、ステージにおいて3選考委員による公開討議(司会=佐野光司氏)を行った結果、「第15回芥川作曲賞」受賞曲に斉木由美氏の作曲による「アントモフォニーIII」が選定された。
3. 公開選考終了後、直ちに同ステージにおいて贈賞式が行われ、サントリー音楽財団理事長 堤剛氏により賞状、賞金(50万円)が授与された。
なお、斉木由美氏にはサントリー音楽財団より交響管弦楽曲の新作が委嘱され、完成後に同財団主催のコンサートで初演される。(委嘱料100万円)

以 上